市報 ぎょうだ
No. 843
平成28年9月1日 発行

行田 歴史系譜 270

歴史を語るこの〝いっぴん〟 ～博物館の収蔵庫から～ 6

鎌倉時代の常滑焼の壷

行田市郷土博物館所有

常滑焼は愛知県の知多半島、中でも常滑市を中心に製作された陶器の総称です。その生産は平安時代末から始まり、14世紀にかけて知多半島に広く分布しました。さらに、12世紀の奥州平泉遺跡群（盛岡県平泉町・奥州市）や九州の博多、大宰府の遺跡からもまとまって出土していることなどから、早くから製品の流通が全国に及んでいたことも分かっています。

写真の壷は平成6年（1994）に市内埼玉地区で農作業中に見つかり、郷土博物館へ寄贈されたものです。発見者によれば、こぶし大の河原石に囲まれた状態でこの壷が置かれ、ふたはなく中も空だったそうです。口縁部を欠いていますが他に欠損はなく、現存の高さは28・8センチ、幅は26・9センチです。上半部に自然釉（表面に降った灰が高温で溶けたもの）が掛かっています。

この壷と口縁部や肩の張り出し具合などがよく似た事例として、東松山市利仁神社経塚から出土した壷があります。建久7年（1196）銘のある経筒を伴っていたとされ、同年銘の鏡も併せて出土していることから、12世紀末の特徴をよく表した事例とされています。このことからこの壷も同じく12世紀末から13世紀初頭ぐらいの製作年代と推定されます。また、関東への常滑の壷の搬入のピークは13世紀後半から14世紀前半にかけてとされることから、この壷は早い時期に関東に流通した事例ともいえます。

次に、この壷の用途ですが、出土した近くには古代寺院とされる盛徳寺があり、初期の常滑焼は経塚や墓から見つかることが多いことからも、蔵骨器であった可能性があります。当時、火葬骨を容器に入れて埋葬する階層は限られていました。12世紀末は源平の争乱や鎌倉幕府の成立により、武蔵武士が歴史の表舞台に登場しました。この壷も埼玉地区周辺の武士と関わりがあるのかもしれません。

（郷土博物館　鈴木紀三雄）

常滑焼の壷

こぜにちゃんがwithフラベえ 行く！ 福祉施設編

ぴーす
（運営:NPO法人CILひこうせん）

今月は放課後等デイサービスぴーすに遊びに行ってきたよ。

平成26年4月にオープンしたぴーすは、現在小学4年生から高校2年生までの6人が利用しているよ。普段は近所のスーパーで買い物をしたり、掃除や洗濯などの家事をしたりと将来の自立に向けた訓練をしているんだ。

お隣は同じ法人の経営するグループホーム「絆　6つの夢」があって、入居者とお互いに声を掛け合ったり、庭を手入れしてもらったりして交流を深めているよ。また、法人主催のイベントに参加することもあって、最近は流しそうめんをやったんだって。

人との交流やいろいろな体験を通じて成長していくぴーすのみんなは、とっても元気で仲良し。そんなみんなの成長をこれからも見守ってくれるとうれしいな。

【住所】佐間2―1―19　【電話番号】598―4685

今月の表紙　7月30・31日に「第23回行田浮き城まつり」が行われました。

特に多くの観客が詰め掛けたのが、祭りの最後を飾る6台の山車によるたたき合い。夏の暑さに負けない力強い祭りばやしが行田の街に響き渡りました。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。

■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■市報をデイジー版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。

VEGETABLE OIL INK
環境にやさしい植物油インキ
市報ぎょうだは再生紙を使用しています

■編集・発行／行田市総合政策部広報広聴課
〒361―8601 行田市本丸2番5号
TEL 556―1111 FAX 550―2116